

みちしるべ

第121号

人権・同和問題啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議

平成24年度 人権作文・人権ポスター特集

出雲市教育委員会では、豊かな人権感覚を身につけることを目的に人権作文・ポスターコンクールを実施しています。

今年度も市内小中学校児童生徒のみなさんからたくさんの人権に関する作文とポスターがよせられました。その中からいくつかの作品を紹介しましょう。これらの作品を通して子どもたちの純粋な心に触れ、今一度自分の日頃の言葉や行動を振り返ってみましょう。



朝山小学校 6年 青木 大治

小学校低学年の部 特選

いっしょにあそぼうね

神西小学校 2年

小村 健太郎

ぼくは、毎日学校へ行くことがたのしみです。友だちにあえるし、休み時間にサッカーややきゅうをしてあそぶので学校は大すきです。一学きに、出雲ようご学校の友だちがぼくたちの小学校に來られて、いっしょにあそんだよ。一年生の時から交りゆうしていて、六人の二年

生の人となかよくなりました。

ぼくのグループは、Aくんといっしょにあそびました。はじめに、じこしようかいの時間があり、じぶんのすきなべんきょうやあそびをはっぴょうしました。

Aくんは、はじめは、きちようしているように見えたけれど、じこしようかいがはじまったら、えがおになつてきました。

その後で、「このはしがおちる前に」のうたあそびをみんなで大きなわになつてやりました。でも、このうたあそびをやる前はわらつて走つていたAくんは、おわたときにないていたのです。

ぼくは、なみだをうかべ、はをくいしばっているAくんを見て、はっとしました。Aくんのなみだのげんいんは、ぼくだとその時気づきました。

音がくがなりはじめた時は、ぼくのすぐ後ろにAくんがいたから、いっしょに走つて、はしがおちる前にとおりぬけようとしていました。でも、おわたた時は、すっかりAくんのことをわすれてしまつて一人でどんどん走つてしまい、Aくんは、はしがおちておになつてしまつたのです。

ぼくは、じぶんのことばかりかんがえていたなどはんせいしました。Aくんは、たのしみにして來ていたのに、いやな気もちにさせてしまいました。「ごめんね。」とAくんにあやまつたら、「うん。」とうなずいてくれました。もうすぐ、いっしょにあそぶ日が來ます。Aくんたちとなかよくあそびたいです。





檜山小学校 3年 岩本 悠



出雲第一中学校 3年 岡田 典子



国富小学校 5年 梶谷 春稀



小学校高学年の部 特選

小さな子に
教えられたこと

神戸川小学校 6年

石倉志音

ぼくは、小学生最後の夏休みの間、ほとんど毎日八時三十分になると、自転車で乗って母が働いている病院に向かいました。その病院の中に、小さい子ども達が来る保育園のような場所があります。母はそこで保育の仕事をしています。でも、保育園とは少し違います。そこに来る子ども達は、いろいろなこと例えば歩いたり、お話をしたり、友達と仲良く遊んだりするといふことが、同じ位の子ども達のようにできなかつたり、できるまでにちよつと時間がかかつたりします。

母は自分の働いている所で、体験学習をしてみないかと言いました。ぼくは、子どもがとても好きなので、行くことにしました。初めて会う子ども達の反応はみんな違いまし

た。不思議そうにぼくの顔を見つめたり、逃げたり、笑って手を引っぱって遊ぼうとしたり、おんぶしてと背中に乗る子どももいました。毎日プールに入って、水遊びをしました。いきなり、ホースの水をかけられたり、水鉄砲でうち合いごっこもしました。お昼ご飯は自分でできるようにするお手伝いをします。スプーンですくってあげたら、自分で持つて食べたり、苦手な野菜はほかの人が言っても食べないのに、「お兄ちゃんが見てるよ」と言うと、食べることでできて、とてもうれしかったです。お昼ねの時は、ぼくの手や耳をさわると安心してねる子もいました。

しゃべることができない子どもが多かつたけれど、ぼくはあまり困りませんでした。なぜかと言うと、遊びたいという時はじつとぼくの顔を見て手を引っぱつたり、いやな時は泣いたり、うれしい時は笑つたりします。それに、ぼくの妹も病気のために話したり、動いたり、食べたりすることが自由にできなかつたの

で、子ども達の気持ちがよく分かる気がしました。ぼくは、体験実習を通して、今までより強く感じるようになったことがあります。人はみんな個性があつて、みんなちがいます。同じ年れいの子どものようにできないことは、特別なことではないと思います。「普通に」とか「当たり前」とか言うけれど、普通とは何のことなのか、当たり前とは誰が決めるのか、よく分かりません。

ぼくは、子ども達といっしょに遊んだ毎日がとても楽しかつたし、自分より小さい子ども達にパワーをたくさんもらいました。そのパワーは、何にでも一生けんめいがんばつているから出てくると思います。笑うことも泣くことも、遊ぶことも食べることも、みんな全力だと思えました。夏休みにぼくも、子ども達のおかげで成長できたと思います。

そして、これからも、いろいろな人に優しくできる人間になりたいと思います。